

新宮山彦ぐるーぷ第1927回12

### 春季連休中の行仙宿への来宿舎の対応と

### 丸太からチェンソーでベンチ用の板挽き製材作業など

◇実施日：平成29年4月29日(土・祝)～4月30日(日)

4月29日(土・祝) 快晴。

◇参加者：川島 功、梶野照雄。 2名。

5月17日の「役行者像開眼供養」のためにベンチ(長椅子)を作ることになった。

丸太を板に製材してベンチに加工するには、チェンソーに取付けるアタッチメントを楽天で探したが、3万円ほどする。

Youtubeで探してみたら、自作のアタッチメントが一杯あった。構造は単純なので、手持ちの材料で2種類作ってみた。



行者堂に到着

丸太製材のアタッチメント

椎木・今野行者

午前10時過ぎに登山口に着いてモノレールを下ろしチェンソー、工具などを積み込んで登る。

夕食の準備を忘れてきたので一度下山するつもりで、ザックは

車に残してきた。11時20分に行仙宿到着、川島さんが出迎えてくれた。

すぐに板挽き製材の準備をして、佐田ノ辻南側に積んである丸太一本で試してみる。

初めてアタッチメントで縦挽きしたが、思ったより上手くいった。ただ、この場所は南に傾斜していて、切っていく内に丸太が下がっていくので、水平な場所で作業する必要があると思った。

12時だったので昼食。食後の川島さんは、行仙岳北側の段差補修へ。

私は製材を続ける。場所を石柱前に移して作業。すぐ傍のにあった3m位の丸太から始めた。最初の板挽き製材に15分ほどかかったが、まざまざの出来だ。

丸太を90度回してアタッチメントを交換して板挽きの準備をしていると、順峯中の椎木、今野両氏が到着された。

行者堂で勤行後、小屋でコーヒーを出して休憩していただく。川島さんが行仙岳で作業していることを伝えて、お二人を見送り、作業を続けた。



チェンソーの製材用アタッチメント



チェーンソーで板挽き作業



厚さ4cmの板



来宿者

一枚目の板を切る。結構時間がかかるので、燃料の減るのも早い。チェーンソーのチェーン刃にも縦挽き用があるので、刃を交換したらもっとスムーズに切れるかもしれない。  
もう一つ、アタツチメントの構造上、接する垂直面が平面のところが切り易いことが判る。以後は2面をカットした後に板を切るようにした。

14時半ごろに雷雨で一時中断、川島さんが戻ってきて小屋で休憩。

雨が止んだので再び製材を始めた。16時前にまた小雨が降り出した、あと一枚なのでそのまま作業を続けていると、水場から一人の男性が上がってきた。愛知県からの逆峯者だった。降りて行ったのは全く気付かなかった。

16時に作業終了、小屋で休憩して雨が止むのを待った。

17時、雨も止んだので空身で一旦下山し、髪の毛の中まで木屑が入ってしまったので「きなりの湯」で入浴し、ついでに夕食も済ませて行仙宿に戻った。

明日のためにモノレールを駐機場に置いてからだだったので、小

屋についたのは20時20分になってしまった。

#### 4月30日(日) 晴れ

午前5時過ぎに愛知県の男性が出発、7時前に朝食を食べて当日組を待つ間に、トイレと携帯充電器の配線を手直しする。トイレはタイマーが入っているのので、電源に直結。

充電器は常に使えるように、これも電源に直結、小屋の照明を付けなくても常に使用できるように変更した。

午前10時過ぎ、当日組が続々と到着する。製材作業再開、橋本さんと児島さんが製材を初体験、しばらくするとコツがつかめたようで、お昼までに5枚の板が出来上がった。

昼食後、大半のメンバーは笠捨山捲き道の整備に向かったため、生熊さんが手伝って下さる。



丸太からチェーンソーで製材作業

生熊さんはさすがに呑み込みが早く、少し教えるだけできれいな製材の板ができた。2日間、約6時間で12枚ほどの板を作ることができた。ガイド木材の取付けや取り外し、アタツチメントの交換などで時間がかかり、かなりの時間と根気にいる作業であ

る。  
昼食後、下山するまでの間に、管理棟の配線を変更した。今までは小屋の照明を点けなければ管理棟も点灯しなかったが、電源に直結して、小屋のスイッチとは関係なく、いつでも点灯するようになった。但し、タイマーは入っていないので、消し忘れのないようにお願いしたい。同時に管理棟にも携帯電話の充電器を取付けたので、こちらの利用もお願いしたい。

(記：梶野)